

ピラサ

アイヌの人たちの歴史・文化

生業

明治初期頃までのアイヌの人たちの一般的な生活は、四季をとおしての山野、海、川での狩猟、漁撈・植物採集による生産物によって衣食住のほとんどを賄っていました。また、それらの生産物は、時代ごとの流通機構に組み込まれる交易品としても活用されていました。一年を通じて男、女の仕事、男女共同での仕事と、役割分担がなされていました。狩猟・漁撈などの重労働は主に男性、また、山菜採りや機織りなどの軽作業は主に女性や子どもの仕事とされ、加工保存技術を発展させることで食糧自給を安定化させ、動植物を必要以上に乱獲しませんでした。

狩猟・漁撈

狩猟は、獲物が発見しやすく、危険度が少ない、さらに毛皮が良質の時期でもある晩秋から早春にかけて行われました。大型動物ではエゾシカ、ヒグマ、中・小動物ではエゾタヌキ、ウサギ、エゾリス、鳥類ではエゾライチョウ、カケス、スズメ、カモ類などを捕っていました。猟の出発前には、火の神、家の守り神に、豊猟と猟の安全を猟の神に伝え、祈り、犬をともなって、気の合った者数名で出かけました。



イタオマチブ(板綴船)漁・交易

漁撈は、海辺での貝類や海草類の採集、川ではサケ、マス、海ではメカジキ、アザラシなどを捕獲しました。猟場は一集落の占有、あるいは複数の集落が共有利用する領域からなり、漁場は各集落、個人の領域がありました。

植物採集・農耕

春にはフキ、ギョウジャニンニク、ヨモギなど、夏から秋にかけてはヤマブドウ、ドングリなどの木の実や果実、根菜類(オオウバユリ、エゾエンゴサクなど)やキノコ類など採集していました。江戸時代中期から後期の記録では、ジャガイモをはじめヒエ、アワ、キビ、ムギ、ソバ、マメ、カブなどが栽培されており、そのほか、漁場労働での和人の影響により、大根、カボチャ、ネギ、アタネ(カブの一種)なども栽培され、簡単な農耕が行われていました。



オオウバユリ採集の様子

貯蔵保存

食糧保存は、一度煮てから天日で乾燥、さらに屋内の炉上の火棚で乾燥させ、炉の煙で燻製にし、それらを、樺の樹皮に包み束にしブ(倉)に貯蔵しました。オオウバユリの球茎から採った澱粉を円盤状の団子にし、乾燥させ、屋内に吊して保存しました。このように越冬用、飢餓用に多くの食糧を備えていました。

交易

13~16世紀頃は、盛んに周辺諸民族と、17世紀末には、本州以南の和人とのかかわりだけでなく、積極的にイタオマチブ(板綴船)で、東は千島列島の民族と接触し、北方では、サハリン及びアムール川下流域や沿海地方まで遠征していました。毛皮や鳥の羽などと交換に「蝦夷錦」と呼ばれた中国宮廷の古着を松前にもたらしました。周辺の民族と多様な関係をもちながら、自らのくらしを築いてきたのです。18世紀末において女性はほとんど自分や家族のためでなく、アットウシ(樹皮衣)さらに毛皮、干鮭を交易のために生産し、伝統的な生業は制約されていました。

【出典】 『アイヌ民族の歴史と文化』 教育指導の手引 2000 田端宏、桑原真人=監修
『アイヌの人たちとともに』 その歴史と文化 (財)アイヌ文化振興・研究推進機構

アイヌ語 豆知識

今回は、用具などの一例を紹介します。

アマッポ(amappo) = 仕掛け弓 マキリ(makiri) = 小刀 タシロ(tasiro) = 山刀
アクペ(ak-pe) = 仕掛け罾 キテ(kite) = 鋸 イカヨブ(ikayop) = 矢筒
タラ(tar) = 背負い縄 サラニブ(saranip) = 背負い袋 ピパ(pipa) = 穂ちぎり用具
イヨクペ(iyokpe) = 鎌 マレク(marek) = 突き鉤

【出典】『萱野 茂のアイヌ語辞典』 萱野 茂 著 三省堂
『アイヌ語沙流地方方言辞典』 田村すず子 草風館

留萌教育局では、平成19年度から、初任者研修「一般研修」第1期の「北海道の教育」の講座において、北海道アイヌ教育相談員を講師に招き、「アイヌの歴史・文化などに関する指導の充実」についての研修を実施しています。

【平成19年度の内容】

実施期日：平成19年5月8日（火）

14：55～15：55（60分）

説明内容：

- ・なぜアイヌ史を学ぶのか
- ・アイヌ民族の現状
- ・アイヌ民族の歴史と文化
- ・アイヌの歴史・文化などに関する指導の課題
- ・アイヌの歴史・文化などに関する指導の実際
（指導に当たっての配慮事項、各学校種における取扱い等）

【平成20年度の内容】

実施期日：平成20年5月14日（水）

14：55～15：55（60分）

説明内容：

- ・アイヌの人たちの歴史や文化に関する教育を学ぶ目的
- ・アイヌの人たちの歴史と文化
- ・指導の充実に向けて
（留萌管内のアイヌ語の地名、アイヌ文様の切り紙体験、指導資料の紹介等）

平成19年度の実施状況等を踏まえ、内容の焦点化を図るとともに、体験活動を取り入れるなど、研修の成果を実践に生かすことができるようにしました。

平成20年度の初任者の感想

北海道の文化ともいえるアイヌについても学び、アイヌが「エコ」の考え方をもっていたことを知った。（小）

アイヌ文化と歴史を把握し、授業に生かしていきたい。（小）

アイヌ文化について触れ、北海道に住んでいながら知識をもっていないことを認識した。（小）

身近にあるアイヌ文化について気付くことができた。（中）

アイヌ文化について教育するという観点から歴史、文化等について知ることができた。（中）

ふだん学ぶ機会の少ないアイヌ文化に触れられたことで、授業等で郷土の文化を積極的に取り入れていこうと感じた。（中）



「アイヌの歴史・文化などに関する指導の充実」研修風景

アイヌの人たちの歴史・文化等に関する関連施設の紹介

	住所	電話番号	ホームページアドレス	特徴
北海道立北方民族博物館	網走市字潮見309-1	0152-45-3888	http://hoppohm.org	グリーンランドや北欧までのアイヌ文化を含めた北方民族の文化とオホーツク文化を紹介しており、講話（歴史）やビデオの上映などを行っています。
阿寒アイヌコタン	釧路市阿寒町阿寒湖温泉4丁目7-19	0154-67-2727	http://www.marimo.or.jp/~akanainu/	古い時代のアイヌ民家を再現したアイヌ生活記念館で当時の生活用具や衣服などを展示しているほか、ムックリ製作や演奏体験、木彫体験、刺繍体験、古式舞踊の鑑賞・体験、歴史や口承文芸の講話などの各種体験学習ができます。